



多様性を認めあい、人権を尊重する社会づくり (多文化共生)

● 現状と課題 ●

当町においても全体の人口が減少する中、外国人住民や外国人観光客は、令和2年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、減少に転じているものの、それまでの5年間では、経済のグローバル化に伴い、それぞれ共に増加しています。住民、行政は、共に多文化共生社会を身近なものとして認識する必要があります。

身近な地域社会で異文化に接する機会は増えており、地域に暮らすすべての人が多様性を認めあい、支えあいながら、共に地域づくりをしていくことが求められています。しかし一方では、言語や習慣の違いから災害時の避難行動が遅れるおそれや、近隣での生活トラブルが発生することもあり、地域社会の中で日本人と外国人が共に安心し、同じ住民として円滑に生活が送れるための取り組みが必要です。

● 目指す方向 ●

- ① 多文化理解教育の充実を図ります
- ② 多文化共生社会の形成を目指します

外国人と共生していくための問題解決のためには、国籍や民族の違いを越えた人権意識の醸成への啓発や互いの文化や習慣等を理解し、尊重しあうことが必要です。

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民と関わる中で、互いの異なる習慣や文化の理解を深める ・外国人も地域行事へ参加する ・外国人が地域行事へ参加しやすい環境をつくる ・日本人、外国人を問わず、納税やゴミの分別など地域のルールを守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と日本人が互いの異なる習慣や文化の理解を深めるための多文化理解教育を実施し、啓発を行う ・地域行事での交流で出た外国人住民の意見を自治会より聞くことに努める ・外国人住民に対し、地域社会の一員として、生活ルールを理解し守ってもらうよう、やさしい日本語や多言語対応による情報提供を行う